

第2回 地域医療支援病院運営委員会および地域協議会 議事録

開催日時;2024年7月25日(木)14時30分

場所 ;JCHO大阪病院 6階講堂1

出席者 ;【委員】

委員	JCHO 大阪病院	院長	西田 俊朗
委員長	JCHO 大阪病院	院長特任補佐	市川 肇
副委員長	JCHO 大阪病院	副院長	島田 幸造
委員	JCHO 大阪病院	副院長	金子 晃
委員	JCHO 大阪病院	副院長(看護部長併任)	谷岡 美佐枝
委員	JCHO 大阪病院	事務部長	細井 昌宏
委員	福島区医師会	副会長	塚本 尚哉
委員	福島区医師会	理事	塚本 雅子
委員	福島区歯科医師会	副会長	石田 裕将(代理)
委員	福島区薬剤師会	会長	伊東 敏行
委員	大阪市保健所	西部保健医療監	半羽 宏之
委員	福島消防署	署長	松田 幸久
委員	(病院利用者)		雑賀 孝
委員	(病院利用者)		西川 まさ子

【関係者】

大阪病院	医療福祉相談室・地域医療連携室室長	三村 麻紀子
大阪病院	救急外来看護師長	松山 佳子
大阪病院	総務企画課長	小西 英康
大阪病院	医事課長	橘 弘城
大阪病院	地域医療連携室係長	小谷 直子

【議題】

1. 地域医療支援病院 指定要件に関する定期報告
 - 1) 救急医療の提供に関すること
 - 2) 紹介患者に対する医療提供に関すること
2. 入退院支援
 - 1) 入院支援
 - 2) 退院支援
3. 当院に対するご質問、ご要望等

1. 地域医療支援病院 指定要件に関する定期報告

1) 救急医療の提供に関すること

救急の要請については7月からコロナの感染、熱中症などにより増加している。

応需率は今まで約80%であったが、現在は92%ぐらいまで増えている。

7月から病院全体で救急車の受け入れを上げていこうという取り組みがあるので、今後もよろしくお願ひしたい。

2) 紹介患者に対する医療提供に関すること

(紹介・逆紹介)

4月以降、近隣の先生方からの紹介が増加していて、件数は月に約1,100件あり紹介率は約84%で推移している。

逆紹介率も約110%と安定した数字であり、今後もこれを継続的に維持していくようにしたい。

(紹介内容)

検査では、かなり多くのCT・MRIの紹介をいただいているので、放射線科の枠を増やしている。

(緊急受診・転院相談)

平均して月に約200件の相談をいただいでいて、約8割の応需となっているが、クリニックについては9割以上受けている。

2. 入退院支援

1) 入院支援

月に約500件、予定入院の患者に関して外来での入院支援をしている。

目的は患者の入院生活をよりイメージしやすくできるようにし、また、スムーズに退院できて退院時に速やかに希望する退院先へ帰れるようにすることである。

2) 退院支援

7月に入ってから救急の入院が増えているため、7月は退院調整の件数が増加していると思われる。

退院調整の転帰については、転院が約6割、家庭への復帰が約2割となっている。

転院先に関しては、回復期リハ病棟が一番多く、次いで地域包括ケア病棟となっている。

(地域医療連携ネットワークシステムのご紹介)

8月より、ウェブ予約、患者の診療記録の閲覧を、連携した医療機関で行うことができるようなサービスを開始する予定である。

予約のオンライン取得については2年ぐらい前にいったん始めていたが、電子カルテと直結していなかった。

今回は富士通のシステムを用いて、直接、予約枠を取得してもらえるようになった。たとえば、検査の予約の場合、同意書や説明書もそのまま印刷して患者に渡していただくことになる。

また、患者の同意が得られれば、その患者の診療情報の閲覧ができるようになり、そのためCD-Rを持って運ぶということを省くことができる。

(退院調整システム ケアブック)

後方支援については、このシステムを使うことにより、システム上で転院の打診をして返事をもらうことができる。

退院調整に関しては、これによりFAXと電話の回数が減り、転院の相談の時間を短縮することが可能となる。

(JCHO 大阪病院 電子処方箋 説明会)

電子処方箋の運用について当院薬剤部長より説明があり、8/5(月)、8/17(土)に当院会場での参加またはWEB参加により行われる予定である。

3. 当院に対するご質問、ご要望等

塚本副会長: 予約システムについて、医師ごとの時間帯が表示され、これをクリックすることにより、そこに入って予約をとり予約票を自分たちでプリントアウトするということでよいか。

三村室長: 医師名を選んでから入るとのことと、先に日時を選ぶのと両方から入ることができる。

そして、予約を取得した時点で予約票がダウンロードされる。

松田署長: 今、熱中症などにより救急隊の出動がかなり多くなっている。

大阪市消防局によると、7月に入って、1日の出動件数が一番多い日で909回となっている。

先生方においても外来診療時に、熱中症に気をつけるようお伝えしていただければ有り難い。

西田院長:現在、救急の受け入れに力を入れているが、陰圧室が使えないときの発熱の場合や、救急車が重なったときはお断りすることもある。
また、ネットワークシステムに関連して、脳卒中や心不全の場合など、専門家にすぐ画像を見てもらえるようなシステムを構築していく必要がある。
最後に、オープンキャンパスについて、病院や医療を知ってもらうことを目的とし、今年10/5(土)に開催予定である。

以上